



トップスニュース Vol.122



トップス広島 事務局
〒734-0007
広島市南区皆実町2-8-42
猫田記念体育館1F
TEL: 082-254-2012
FAX: 082-251-5712
URL: www.tops-h.net/

このQRコードから
公式Webサイトへ
アクセスできます。



新加入！ヴィクトワール広島



2022年6月15日にプロ自転車ロードレースチームである「ヴィクトワール広島」がトップス広島に加入した。「ヴィクトワール広島」は2015年に誕生した中四国初のプロ自転車ロードレースチームで広島を拠点に活動している。トップス広島の加盟チームとしては初の車輪の競技チームとなる。ロードレースは主に公道をコースとする自転車の長距離レースで、各チームから複数の選手が出場する。チームの中で優勝を狙うエースとそれをサポートするアシストに分かれて、それぞれが役割を担ってレースを進めていく。その中で自転車のスピード感が感じられるところや選手同士の頭脳戦が繰り広げられるところが競技の魅力となっている。チームは国内のプロリーグである、「ジャパンサイクルリーグ」に参戦しており、全国10チームが参戦するこのリーグで現在の6位と健闘している。

また、ヴィクトワール広島は地域密着型の活動を目指し、社会貢献活動として学校を対象に自転車安全教室を行っている。プロの選手が実際に学校を訪問して安全教室を行うことで子どもたちに分かりやすく交通ルールやマナーを知ってもらおうと今年度は現在までに8回開催している。

今後の目標について中山卓士監督は、「いろんな人にヴィクトワール広島を知ってもらい、日本一強く愛されるチームを目指していきたい」と話している。

広島から日本一強く愛されるチームへ。ヴィクトワール広島の挑戦が続いていく。
(押川梨沙)



©Itaru Mitsui

更なる高みへ！

上松選手・同門対決を制し初優勝を飾る！

5月14・15日にかけて埼玉県熊谷さくら運動公園テニスコートで、第29回全日本シングルスソフトテニス選手権大会が行われた。この大会でNTT西日本ソフトテニス部所属の上松俊貴選手と内田理久選手が決勝で激突した。この同門対決を上松選手が制し見事、初優勝を飾った。

上松選手は今年の大会の中で、最も達成感や喜びを感じた大会はどの大会かという質問に対して、「全日本シングルス」と答えた。また、現在のチームの目標を伺ったところ、「国内タイトル独占、日本リーグ優勝」と更なる高みへ強い姿勢を見せた。

新型コロナウイルスの影響もあり、大会が中止になったりコートが使えなくなったりと苦しい状況が続いた。しかし、それでも選手達は日々成長するために全力で練習に取り組んでいる。選手の皆さんに現在のチームの雰囲気について伺ったところ、全員が「良い雰囲気です。」と力強く答えた。

村上雄人選手はいつも応援してくれる地域の方に対して、「皆さまあつてのスポーツチームだと思っています。皆さまへ感動を届けられるよう精一杯頑張りますので、応援よろしくお願い致します。」と感謝の気持ちを述べ更なる成長を誓った。日々成長し、進化していくNTT西日本ソフトテニス部の今後の活躍に目が離せない。

(伊藤倫生)



シーズン初2連勝！チーム全員で掴んだ勝利！！



開幕戦から3ヶ月が経ったワクナガレオリック。チームの柱である後藤悟選手に今後のチームの目標について話を聞くことが出来た。後藤選手は「今シーズンのチームスローガンである不易流行を普段から意識し、強い湧永製菓の復活を目標にしています。」と力強く語った。また、個人の目標として「一試合でも多く勝利に貢献し、ファンの皆様を感動させるような試合、プレーをすること」とファンを熱狂させたという気持ちが溢れていた。

7月31日に行われたトヨタ自動車東日本との対戦では、今シーズン初の2連勝を果たしている。これは、日々の練習で心掛けていく”プレーの感覚、タイミング、どんな状況でも最低限自分の出せるパフォーマンスの質を高めていくこと”、”常に試合だと思い、練習に励むこと”をチーム全員が徹底してやり続けたからこそ掴めた勝利だった。そして、後藤選手に直近での試合のコメントを伺ったところ、後藤選手は「チームとして開幕当時から練習してきた速攻が増えてきているのでいい試合ができています。」と語っており、チーム全体が良い方向に向いてきていることを、選手自身が実感していた。

激戦が続くワクナガレオリック、今後に向け注目選手を伺ったところ、福本選手の名前が挙がった。「まだまだ若手選手ながらチームトップの得点力と機動力があり、これからの活躍が楽しみな選手である。」と期待を寄せており、今後のワクナガレオリックに必要な不可欠の即戦力となること間違いなさだろう。快進撃を期待させるワクナガレオリックの今後の活躍から目が離せない。

(宮本爽夏)

選手にインタビュー！期待の新人・三上雄太選手

トラックシーズンに入り大会や記録会が続いている。大会記録、自己記録を更新する選手や好記録を狙えるペースでのレースを続けている選手が多く、期待が高まる中国電力陸上競技部。今回は新人選手の三上雄太選手にいくつかの話を伺った。



Q1. 実業団チームに入ってから心境は？

新しい環境で新しい仲間たちと一緒に走れるので新しい発見があってとても楽しいです。

Q2. 大学（学生時代）との違いは？

実業団は大学と違い競技だけでなく仕事との両立が必要になります。その分責任なども持ちつつ上のステージでできるのでやはり感じています。

Q3. ここまでの今シーズンのレースの感想

現段階では大学時代の感覚の流れで走っているので、大学時代の土台を大切にしながら少しずつここでの練習を積んで結果に繋がっていただければいいと思います。

Q4. 駅伝シーズンに向けての意気込み

夏の地道な足作りをしっかりとこなせることができたので、駅伝の後半バテることなく全力を出し切りたいです。

三上選手は今シーズンからチームに加わり大学から社会人へと環境が変わる中で環境の変化に対応し好走を続けている。10000mではセカンドベストをマーク、5000mでは13分台まであとわずかまで迫っており、今後の駅伝シーズンでの活躍に期待がかかる。社会人選手として初めての駅伝シーズンに向けて調子を上げるとともに、チームに勢いをつける走りをしてくれることを期待している。
(赤木宏旭)



イズミメイプルレッズ

更なる高みへ！熱戦続くイズミメイプルレッズ

9月4日から開催される日韓定期戦、日本代表おりひめジャパンのメンバーにNo.15 高木奈央選手が選出された。さらに、追加招集選手としてNo.30 石川莉子選手・No.10 秋山静香選手も初選出された。第1戦の試合がホーム・日本で開催され、日本は果敢に韓国に追いつこうとするも、結果は19-25で破れてしまった。しかし、この試合で秋山選手がA代表戦初出場、高木選手はA代表戦初出場・初得点を獲得した。試合を終えて高木選手におりひめジャパンに選出された時の気持ちと韓国と試合をした感想について伺ってみた。「おりひめJAPANに選出された時は正直驚きました。合宿最初はイズミメイプルレッズから1人だけの選出で心細かったことを覚えています。韓国と試合をした感想は、スピード感やフェイント、ディフェンスでの当たりの強さを体感し、とても貴重な経験をさせて頂きました。また、ホーム戦では私の地元である愛知県で試合が行われたので、家族、恩師、たくさんの友人の前でハンドボールをすることができて、私の中で忘れられない試合になりました。この経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思います」と語ってくれた。



9月25日に開催されたJHL第8戦にて、No.3石川紗衣選手がリーグ通算300得点を獲得した。石川選手は2017年にイズミメイプルレッズに加入し、LW(左サイド)としてチームを支えている。石川選手は「200得点目の前に大怪我をしたので今回特別300得点に対してあまり気合い入れすぎないように考えないようにしていたのが正直な気持ちです。実際に300得点達成して周りからおめでとうと言われると実感が湧いてきました。チームのみんなが繋いでくれたボールをゴールに入れた回数が300回と考えるとチームのみんなに感謝です！今後は、この結果に満足せずにチームの勝利に体を張って貢献していきます！引き続きイズミメイプルレッズの応援よろしくお願いします！」と感謝と意気込みを語ってくれた。

7月から始まった日本リーグは後半戦に差し掛かろうとしている。中山剛監督に前半戦を戦ってきたの課題点と今後の目標について聞いてみた。「リーグ戦半ばで3敗という事が問題点であり課題である。復帰に時間がかかる怪我人を多く出した事も起因しているが、ゲームの中で直接失点に繋がる攻撃のパスミスやシュートミスが多く、自分達で良い流れのコントロールが出来ていない。その様な波の荒さが、現状を表している。この状況を乗り切って、中盤戦以降若手の台頭を期待しています。ピンチをチャンスと若手が思ってくれば、自ずと良い波が起きるはず。まずは、プレーオフ圏内確保。2位じゃダメ！更なる高みを目指す」と強い意気込みを示してくれた。

試合はまだまだ残されている。高みを目指し、今後益々盛り上げてくれるであろうイズミメイプルレッズに注目だ！

(太田和)



広島東洋カープ

来季巻き返しへ！

期待の戦力と新監督で覇権奪還へ挑む！

2022年10月2日、セ・リーグのペナントレース全日程が終了し、王座奪還を目指した広島東洋カープは昨年より順位を1つ落とし5位という結果になった。しかし、そんなシーズンの中でも奮闘した選手達がいる。1人目は今年、アメリカから加入したライアン・マクブルーム選手だ。中軸としての長打力だけでなく、広角に打ち分ける打撃センスも目を見張るものがあった。結果としてもホームラン、打点ともにチームトップの成績を残し4番としての役割を果たした。選球眼も目を見張るものがあり、四球数はチームトップ、リーグ全体では6位という結果であった。本人はリーグ戦開幕当初、「本塁打の数よりも打点を稼いでチームに貢献したいと思います。球場全体を広角に使って、アベレージを残せるバッターであるところが自分に対して期待してほしいところです。」と今シーズンの活躍を予感させる言葉を残している。来季も貴重な得点源として活躍が望まれる。



2人目に取り上げるのは昨年からチームに加入した森浦大輔投手だ。キレのあるストレートとチェンジアップを軸に奥行きのあるピッチングが特徴で「8回の男」としての期待が寄せられている。

ルーキーイヤーの昨季はチーム最多の54試合に登板しサウスポーの即戦力として今季も注目されていた。開幕は出遅れたものの、徐々に調子を上げていき、期待に応える活躍を見せた。成績は今季もチーム最多の登板数で、昨季の17ホールドを上回る24ホールドを記録し、新セットアッパーとしての役割を果たした。来季は課題としている対左打者を克服し中継ぎエースとしての進化に期待したい。



また、来季に向けては新井新監督を迎え入れた。今後のビジョンを聞かれ、来年を精一杯戦うのが基本になるとした上で、「中期的な事と長期的な事を考えながら指揮をしていかなければならない」と今後のチーム再建を見据えている。帰ってきた広島背番号25番に大きな期待がかかる。

これだけでなく、カープは新ユニフォームも発表した。ホームユニフォームは前回のものより、深みのある赤い“CARP”のロゴを携え、もう一方のビジターユニフォームは鮮やかな赤が目を引くデザインとなっている。実に14年振りとなるユニフォームのモデルチェンジについて栗林投手は「このユニフォームと共に広島東洋カープが強くなって常に優勝争いできるチームになればいいと思う」と勝利に向け、熱い言葉を残した。

3連覇後、4年連続Bクラス。この現況を脱却するべく動き出した新生広島東洋カープ。頼れる助っ人、期待の若手、そして新たな指揮官と王座奪還への準備は整った。来季の更なる躍進に今後も期待したい。(西谷天司)



寺嶋良選手

新キャプテンに就任！

B.LEAGUE-2022-23 シーズン、広島ドラゴンフライズが見据えるシーズン目標、それはチャンピオンシップに出場することだ。その目標の達成を期待させるチームの原動力となる選手がいる。背番号0番、PG 寺嶋良選手だ。

寺嶋選手は京都の名門校、洛南高校から東海大学に進学し、3年次のインカレ優勝に貢献し、4年次にはキャプテンを務め、ベスト8という成績を残している。大学卒業後、京都ハンナリーズに加入し、卒業後初年度となる2020-21シーズンにいきなりチームの副キャプテンに任命された。

2021年5月に広島ドラゴンフライズに移籍で加入した後も、チームの絶対的な柱として2022-23シーズンからチームキャプテンに選ばれた。Bリーグ内でも圧倒的なスピードを誇り、その速さから『FLASH』と呼ばれている。昨季は高いシュート確率も誇り、元々持ち合わせていた能力がさらに開花したシーズンとなった。リーグでも注目を集める選手へと成長した。今季は個人の活躍はもちろんのこと、チームのリーダーとして牽引し、勝利に導く活躍にも期待がかかる。

寺嶋選手は「新しいメンバーが加わってスピーディーなバスケットボールとなりました。試合を見に来る方も、さらに楽しめると思います。ぜひ会場に足を運んで応援をお願いします。」とファンに熱い試合を約束するコメントを残した。

寺嶋選手率いる広島ドラゴンフライズの活躍から今後も目が離せない。

(大野修護)



「喜びと悔しさの両方を味わった」 期待のセッター・金子聖輝選手に迫る！

Vリーグは2021-2022シーズンを終え、JTサンダース広島は6位という結果でシーズンの幕を閉じた。2022-23シーズンに向け日々練習に励むJTサンダース広島、その中からセッター・金子聖輝選手に昨シーズンの振り返りや新シーズンに向けての意気込みを伺った。

金子選手は昨シーズン初めて1シーズンを通して試合に出場した。金子選手が昨シーズンを振り返ったところ「試合に勝ちきることの難しさを痛感した」と語った。「フルセットや惜しい試合を何度か経験して、勝ち切る力が足りないことが現チームの弱さだと思う。」と今のチームにおける課題を痛感していた。

そこで、昨シーズン最も印象に残っている試合を伺ったところ「12月の天皇杯と1月の広島大会が印象深い」と述べた。天皇杯では「自分の思ったとおりにプレーができず、何もできないまま試合に負けてしまった」と不完全燃焼だった心境を明らかにした。また広島大会は「1日目はフルセットで勝利したが、2日目はフルセットで負けてしまった。2日間で喜びと悔しさの両方を味わった。」と語った。先ほど述べた『勝ち切る力』の重要さが結果に表れたことも印象に残った試合に起因しているだろう。



さらに金子選手は「セッターとしてチームを勝たすことができなかった。試合の緊迫したなかで、普段通りのプレーができなかったこともあったので自分の未熟さを感じた。」と赤裸々に打ち明けた。しかし、金子選手は「1シーズンを通して試合に出続けることができた経験を活かして日々の練習に取り組んでいきたい。いい意味で楽しみながらバレーボールに打ち込みたい。」と課題の残ったシーズンを味わいながらも力強いまなざしはすでに新シーズンを向いていた。

新シーズンの目標を伺ったところ「新監督が常日頃から口にかけている『トップ争いのできるチーム』になること。もちろん優勝したいという気持ちもあるが、まずはファイナル3に残れるチームを目指し、強いチームになれるように練習に取り組みたい」と熱く語った。

今季からは新しくラウル・ロサノ監督を迎え、10月にVリーグが開幕し、新生JTサンダース広島として開幕2連勝を飾ることができた。金子選手には昨シーズン経験したことを活かし、新たなシーズンでも更なる飛躍と活躍に期待したい。
(山本彩乃)



残り2タイトル！

頑張れコカ・コーラレッドスパークス！



コカ・コーラレッドスパークスは今季、新加入選手としてスピードを生かしたドリブルと得点力を併せ持つ背番号8・小早川志穂選手と粘り強さとスピードを活かしたドリブル突破力を持つ背番号・10中込紅莉選手を迎え、2022年シーズンが開幕した。4冠達成を目標に掲げたチームは開幕から両選手の活躍もあり、獅子奮迅の活躍を見せ、国民体育大会、全日本社会人ホッケー選手権大会、両大会共に決勝まで駒を進めた。王者まであと一勝と4冠をぐっと引き寄せたが、それぞれ準優勝という惜しい結果となった。しかし、4冠達成は叶わなかったものの、選手たちが見せたコカ・コーラレッドスパークスらしいハツラツとしたプレーは今後の試合、必ず実を結ぶだろう。



そんなコカ・コーラレッドスパークスの選手たちの普段の生活の中で意識していることを伺うことができた。ゴールキーパー・田中選手や、フルバック・錦織選手は「ご飯をしっかりと食べる！」といい試合をするために食事面に意識を置いていると答えた。他にも、フルバック・沖原選手のように「次の日に疲れが残らないように、体のケアをしっかりとるようにしている」と自身の体と常日頃から向き合っている選手もいる。こういった選手一人一人の心がけが集結し、試合に結果として現れるのだろう。

また、試合前のルーティーンにも意識を置く選手もあり、今季入団した小早川選手は「気分が上がる曲を聴き、今までの試合でのいいプレーを見るようにしている」と語った。試合でベストを尽くすため、試合以外から全力を尽くし、プレーヤーとしての意識を常に持っていることがコカ・コーラレッドスパークスの強者たる所以だ。

残りのシーズン、残る2つのタイトル獲得に向け大きな期待がかかる。ホッケーは1秒1秒がドラマを生む。その1秒に全力を尽くすコカ・コーラレッドスパークスの活躍に今後も注目だ。
(清永翔)



2019年以来の開催・国民体育大会に出場！



10月7日～10月10日に開催された第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体2022」に、広島ガスバドミントン部から主将・山藤千彩選手、濱北もも選手、志波寿奈選手の3選手が広島県代表で出場し、8日に、富山県との初戦を迎えた。まずダブルス、山藤・志波ペアは第1ゲーム、第2ゲームをストレートで勝利を収め、続いてシングルス、こちらも濱北選手がストレートで勝利を収め好調な滑り出しを見せた。それぞれ初戦を勝利で飾り準々決勝に駒を進めた。迎えた準々決勝は、岐阜県と対戦しダブルス、シングルス共に敗れたが、2014年「長崎 がんばらんば国体」以来となる5位入賞となった。

今回、大会を終えたばかりの3選手からそれぞれ言葉をいただくことが出来た。

主将として挑んだ山藤選手は、「私自身、広島県としては国体初出場でした。試合の前後で広島県の方々からたくさん声をかけてもらい、国体に出場をして、改めて色々な方から応援されているなど感じました。結果は5位で、とても悔しい思いでいっぱいです。この悔しさを忘れずに、日頃から応援して下さる方々に結果で恩返しができるように今後も精一杯頑張ります。」と悔しさを残しながらも、リベンジを誓うコメントを残した。

シングルスで出場した濱北選手は、試合後に広島の方々に『ありがとう』という言葉を受けてすごく温かい気持ちになりました。と、ファンの声援の支えを受け、力強い言葉を述べた。

ダブルスの志波選手も「国体では、広島県代表としてコートに立ち、とても思い出に残る大会になりました。この国体での経験を11月から始まるS/Jリーグに繋がられるよう、精一杯頑張ります。これからも広島ガスバドミントン部の応援よろしく願いいたします。」と、この大会で得られた経験を、これからの試合に生かす意気込みを述べた。

3選手とも悔しさを残る試合だったと痛感しながらも、眼差しは次の勝利を見据えている。この悔しさを糧に、さらに熱い試合をファンに届けていくことだろう。広島ガスバドミントン部の活躍から目が離せない

(三枝知季)



サンフレッチェ広島

3度目の正直。

サンフレッチェ広島、ルヴァンカップ初制覇。



2022年10月22日、東京にある国立競技場で行われたサンフレッチェ広島対セレッソ大阪のJリーグYBCルヴァンカップの決勝はサンフレッチェ広島がC大阪を2-1で見事下し、決勝進出3回目にして、悲願の初優勝を果たした。

前半は両チームとも決定機をものにすることができず、無得点で折り返す。しかし、後半53分に試合が動き、ミスからC大阪に先制点を許す。その後、C大阪のDFが1人退場し10人となり、そこから試合が動き出した。

まず相手のハンドで得たPKをピエロス・ソティリウ選手が決め同点。そのまま終了し延長に突入するかと思われたが、最後に劇的な結末が待っていた。コーナーキックを再びピエロス・ソティリウ選手が合わせ、見事逆転。そしてそのまま試合終了の笛がなった。

そこで今回はキャプテンの佐々木翔選手、決勝でもゴールマウスを守った大迫敬介選手にインタビューした。

●ルヴァンカップ優勝おめでとうございます。今の率直なお気持ちをお聞かせください。

佐々木：「ずっと目指していたものなので、優勝できて非常に嬉しいです」

大迫：「ホッとした気持ちが強いです。ここ数年間はタイトルから遠ざかっていたので、悔しい思いをさせていたサンフレッチェファミリーの皆さんに優勝報告できて嬉しかったです」

●相手は今シーズン3度戦い3勝していたC大阪でした。どのような気持ちで試合に臨まれましたか。

佐々木：「3勝はしていましたが、内容は紙一重でした。どっちに転んでもおかしくなかったですし、3勝は気にせずに決勝に臨みました」

大迫：「どの試合も紙一重のゲームでした。ただ、自分たちのサッカーをすれば勝てると思っていました。決勝戦は先制されましたが、今シーズン戦ってきたように自分たちのサッカーを貫いたことで逆転できたと思います」

● 試合後監督からはどんな話がありましたか。

佐々木: 「相手へのリスペクトや僕らが日本一になったということ。カップを初めて広島に持ち帰ることができたのは、みんなの力という話がありました」

大迫 : 「広島にやっとカップを持ち帰ることができる。グループリーグからチーム全員で繋いできたし、スタッフを含めクラブの一体感が 生んだ優勝だという話がありました」

● 最後にサンフレッチェファミリーに向けてメッセージをお願いします。

佐々木: 「チームとして良いシーズンを送れたのはサンフレッチェファミリーの皆さんのおかげです。ありがとうございました」

大迫 : 「残り試合も勝利し、ACL 出場権が懸かる 3 位以内を勝ち取れるように頑張ります。応援をよろしくお願いします」

劇的な大逆転勝利をおさめたサンフレッチェ広島が長年言われてきた「シルバーコレクター」から遂に脱却、そして天皇杯決勝の悔しさを晴らし、悲願のカップ戦初制覇を果たした。 (馬明侑輝・奥本耕祐)



©2022 S.FC

スポーツを通じた社会貢献

賛助会員 募集中

スポーツを通じた社会貢献活動への 貴社・団体様の参画!

温かいご支援の一つひとつが、夢と潤いのある「スポーツ王国ひろしま」への力となります。スポーツを通じた社会貢献へ継続的に寄与していくため、当NPO法人の事業目的に賛同し、活動を支援して下さる賛助会員を募集しています。多くの皆様からのご支援をもとに、さらに充実した活動を続けてまいりたいと存じます。お力添えくださいますよう、心からお願い申し上げます。

■年会費(企業・団体様)

一口**50,000**円(何口でも可)

■振込先

広島銀行 本店営業部

口座名

特定非営利活動法人 広島トップスポーツクラブネットワーク
理事長 松田 真二

口座番号:普通預金 2774313

ご支援いただいている賛助会員様

RCC中国放送
株式会社RCC文化センター
学校法人石田学園 広島経済大学
有限会社伊藤久芳堂
株式会社インパルスコーポレーション
株式会社NTTドコモ 中国支社
鹿島建設株式会社 中国支店
株式会社桐原容器工業所
呉市
呉バレーボール協会
シンコースポーツ株式会社 中国支店
セキスイハイム中四国株式会社 広島支店
医療法人せのがわ
株式会社体育社
竹原市
株式会社千鳥
中国ジェイアールバス株式会社
株式会社中国新聞アド
株式会社中国新聞社
中国労働金庫 広島県営業本部
TSSテレビ新広島
ドリームベッド株式会社
西日本旅客鉄道株式会社 広島支社
株式会社日本トリム 広島支社
株式会社日本旅行広島支店

橋本燃料株式会社
株式会社ひろぎんホールディングス
株式会社広島朝日広告社
広島菅公学生服株式会社
広島県
広島市
広島信用金庫
広島テレビ放送
広島ホームテレビ
株式会社ヒロタニ
公益財団法人福山市スポーツ協会
平安堂梅坪(田中電機工業G)
株式会社ポプラ
特定非営利活動法人ポラーノ
前田食品(マリーナロッジBIGFLAG)
マツダ株式会社
株式会社マリーナホッププロパティ
ミサワホーム中国株式会社
株式会社メディカルイン
株式会社モルテン広島・四国支店
有限会社安田損害サービス
株式会社有文社
株式会社ユニサス
株式会社良和ハウス
株式会社ルネサンス

(50音順 / 2022年8月末時点)

トップス広島支援自販機 オーナー募集中!!

トップス広島では、支援自販機を設置させていただき、売上の一部をトップス広島の支援金とさせていただきます。「トップス広島支援自販機オーナー」を募集しております。



目的 売上金収入により活動の拡大を図り、さらなる「スポーツを通じた社会貢献」に寄与する。

対象 トップス広島、および広島のスポーツを応援していただける企業・団体・一般の方。

※ロケーション、採算性等の条件により設置いただけない場合がございますので、予めご了承ください。

支援自販機について、詳しくは下記までお問い合わせください。

私たちの名前=トップス広島

正式名称:NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク

「広島」という一つの「すそ野」を持ついくつかのトップスポーツクラブがネットワークをつくり、広島のスポーツ全体を盛り上げていきたいという願いを込めました。「トップス広島」の名前が、県民・市民の皆さんに親しまれるよう努力していきます。

マークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニアの選手がトップの選手を目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。



NPO法人 広島トップスポーツクラブネットワーク

事務局 〒734-0007 広島市南区皆実町2-8-42 猫田記念体育館1F

TEL:082-254-2012 FAX:082-251-5712 <https://www.tops-h.net/>

